

技術で未来拓く

⑩
—産総研の挑戦—

開発、建設工事、防災・減災対策などの基礎資料として活用されている。より正確な情報を得るためには、縮尺の大きな地質図を利用するのが望ましい。

している。

GIS利用

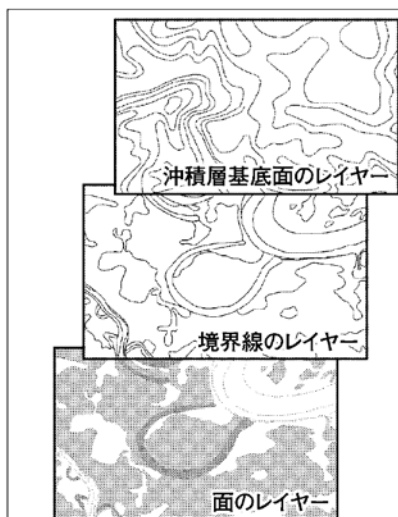
GSJでは、過去60年以上にわたり、独自の調査・研究に基づいて全国の5万分の1地質図を制作しており、これまで出版した地質図は730以上の印刷物であったが、近年はデジタルデータを進めて、完成したデジタルデータ化地質図（GSJ）では、100年以上にわたって日本全国の地質図を制作・整備している。地質図は、その土地の環境評価や資源

ベクトルデータを加工

ン、地質露頭や走向傾斜測定点などの点情報（ポイント）をレイヤーに分けてGIS（地理情報システム）を利用してデータ化するもので、明瞭な境界を持つ地物の表現に適する。ベクトルデータは、行と列の格子状のセルからなるデータで、境界がギザギザになる。

ベクトルデータは、印刷された古い地質図は、印刷が不鮮明なデータ化の判断が難しかった。逆に最新の地質図では、地層・岩相が細かく表現されるため、データ化に時間がかかる。印刷された地質図と同様な表現のベクトルデータには、根気と忍耐が必要であると痛感する。

地質図ベクトルデータ（R川崎駅付近の例）



画像劣化せず

ベクトルデータの特徴には、印刷物やラスターデータと違って、地形や地理の情報を含まないこと、表示する情報が選べること、拡

産総研地質調査総合センター
地質情報基盤センター整備
推進室主幹

宮崎 純一



一言メッセージ

札幌市生まれ。地形変動や鉱山などの地形図作成といった測量業務に従事していたが、1997年の「阪神・淡路大震災」後に本格的に地質図のベクトルデータ化に取り組むこととなり現在に至る。ベクトルデータ化した地質図を効率よく整備できるよう日々まい進している。

大縮小しても編集して集めることができる。火山も画像が劣化しないこの地質図では、データなどがあふれる。GSJの一部を抽出してハザードマップを作ることにはオープンライセンスも考えられる。ベクトルデータを採用しており、データも考えられる。ベクトルデータを加工して利用も例え、5万分の1をGISやCADに読み込んでの活用が広がる。地質図上の一部分を切ることが期待される。（木曜日に掲載）

地質図の整備

産業技術総合研究所（産総研）地質調査総合センター（GSJ）では、100年以上にわたって日本全国の地質図を制作・整備している。地質図は、その土地の環境評価や資源